



シンフォニー（福島県） 「自分が育った村、育ててもらった 村を守るためにできること」

にしごうむら
西郷村消防団 女性部部长
高橋 ひろ子

1 はじめに

私たちが住んでいる西郷村は、福島県の南端、栃木県との県境に位置し、日光国立公園に代表される水と緑に恵まれた自然環境、里山と田園風景が残る農村集落の環境、新白河駅周辺の都市的環境という特色ある3つの顔を持っている村です。人口は20,754人、面積は192.06km²、日本の村で唯一新幹線が停車する駅（新白河駅）や東北自動車道白河インターチェンジを有し、首都圏への新幹線通勤の利用者も多く、ベットタウンにもなっている村です。

また、全国1,741自治体を5つの指標のもとに自治体の経営力をスコア化する、2021年度自治体ランキングサイト（自治体四季報）で、住民の持続可能な幸福を実現する力（自治体の経営力）No.1にも選ばれた村です。

西郷村消防団の歴史は、消防組、警防団を経て、昭和22年9月に消防団として発足しました。現在は団本部以下、村内を3方面隊に分け、7分団24班の体制で活動を行っております。

女性部は、団本部付けとして、平成29年4月に結成され、女性部長1名、女性副部长1名、女性団員5名の計7名でスタートしました。私は、結成当初より女性部長という役職を務めさせていただいておりますが、私が消防団に入団しようと思ったのは、東日本大震災時の消防団員の皆さんの活動

を目の当たりにしたことです。団員の皆さんもそれぞれに家庭があり、自宅が被災している方もいる中で、村内を見回ったり、給水活動を行ったりする姿を見て私も何かできるのではないかと思ったのがきっかけです。自分が育った村、育ててもらった村を自らの手で守り、貢献するために入団を決めました。

現在は、女性団員全員で協力しながら、時には男性団員と一緒に様々な活動を行っています。



女性部の皆さん

2 出初式・検閲式・訓練

西郷村消防団女性部の主な活動内容は、消防団活動の後方支援や防火、防災に関する啓発活動などとなります。消防団への入団当初は、これまで経験したことがない消防訓練礼式にとまどい圧倒されたことを憶えています。しかし、様々な消防団活動への協力や消防学校への入校などにより消防団員としての心構えや役割、礼式などを学

んだことで消防団の重要性とその重要な組織の一員となったのだと感じ、出初式や検閲式、訓練などにも積極的に参加し、式典での司会進行や運営補助、訓練や操法大会での運営補助や選手応援など消防団活動の活性化に少しでも貢献できるように日々頑張っています。

また、女性部の活動として防火、防災に関する啓発活動を年2回、春と秋の全国火災予防運動週間に合わせて村内のショッピングセンター等で街頭活動も実施しております。一人一人に火の取扱いについて丁寧に呼びかけを行い火災予防に貢献しています。



街頭活動の様子



防災訓練の様子



式典参加の様子

3 今後の活動

昨年度と本年度については、新型コロナウイルス感染症の影響で消防団の主だった活動のほとんどが中止となってしまいました。

現在は、以前より行いたいと考えていた心肺蘇生法やAEDの使用方法等の応急手当普及活動を村内各地区にてできればと思っております。しかし、女性団員の中にはまだ応急手当普及員の資格を誰も持っていないので、今後資格を取得し活動を行っていかねばと考えています。今後も先の見えないコロナ禍の中でどのような活動ができるのか不透明な状況にはありますが、その中にあっても火災、風水害、地震などの災害は待つてはくれません。自分が育った村、育ててもらった村を自らの手で守るために、女性団員全員でできることを考え、学び、災害に備えていきたいと考えています。



西郷村イメージキャラクター
「ニシゴーヌ」